

ペプチドリーム株式会社

証券コード 4587



PeptiDream

**PEPTIDREAM INC.**  
REVOLUTIONIZING DRUG DISCOVERY

# 株主通信

2017年7月1日 ●●● 2018年6月30日



# 新たな10年へ順調な スタートができました

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。  
おかげさまで2018年6月期は売上高、利益とも過去最高となりました。  
ここで私から皆さまへのメッセージとして、業績の概要と足下の状況に  
ついてご説明いたします。



代表取締役社長  
リード・パトリック

創業以来10年に渡り社長をつとめた窪田が代表取締役会長となり、私が代表取締役社長となる新体制が2017年9月にスタートしました。社長就任1年目となる2018年6月期の業績は、売上高は6,426百万円(前年同期比31.3%増)、営業利益は2,910百万円(前年同期比16.9%増)、経常利益は3,154百万円(前年同期比20.2%増)、当期純利益は2,335百万円(前年同期比23.5%増)と2桁の増収増益となりました。

費用面では研究開発費が、2017年7月に米国イェール大学発バイオベンチャー企業であるクリオ・ファーマシューティカル社に約3億円の一時金を支払うという特殊要因があったため921百万円(前年同期比558百万円増)と大きく

増加し、新本社・研究所が完成し移転したことによる一時的な移転関連費用(約2億円)の発生及び減価償却費の増加(約3億円)もありましたが、複数の企業からのPDPSの技術ライセンス料収入や米国ジェネンテック社との間で複数の創薬標的タンパク質に対して特殊環状ペプチドを創製する創薬共同研究開発の拡大契約を締結したことによる契約一時金収入等がけん引し、売上高、利益とも過去最高を更新することができました。また、期初(2017年8月)に発表した通期業績予想に対して、利益はいずれも業績予想通りの結果となりました。売上高は未達となりましたが、これは一部のプログラムで期ずれが起きたことが要因であり、私は「業績は順調に推移している」とみています。



# PDPSの継続的なバージョンアップ

PDPSは、低分子医薬や抗体医薬の利点を併せ持つ特殊ペプチドを探索する創薬開発プラットフォームシステムとして開発され、開発後もバージョンアップ研究を継続して行っています。

PDPSを用いたヒット候補化合物の探索作業は、1本のミニチューブの中のみわずか0.1ml程度の溶液で行われます。従来手法と比較して100万倍以上の多様性(1兆種類)を持つ化合物ライブラリーを用いて、わずか2週間ほどでヒット候補化合物を探索することが可能です。

当社のことを特殊ペプチド医薬の開発会社と思われる方も多いと思いますが、現在はPDPSから見い出された特殊ペプチドから得られる情報(標的タンパク質のどこに、どのように結合しているか等)を用いて「低分子医薬」の開発も行っています。また、特殊ペプチドの高い特異性と強い結合力という特性を標的タンパク質に薬物を届ける運び屋と使用するPDC(ペプチド-薬物複合体)を活用した医薬品や診断薬の開発も行っております。

PDPSの特許については、Flexizyme(フレキシザイム)特許をコアにして、周囲を取り囲むように関連する複数の特許で固める特許ポートフォリオを構築することで、PDPSが「システム」として機能するように設計されており、堅固な知的財産となっています。

当社のPDPSを用いた創薬は、これまで多くの時間とコストがかかっていた創薬にイノベーションを起こし得ると考えております。

## PDPS

### 1 フレキシザイム技術

#### 特殊ペプチドを創製する

フレキシザイム技術により、今まで無細胞翻訳系により組み込むことが困難であった特殊なアミノ酸を簡単に、そして迅速にペプチド合成の中に組み込むことができるようになりました。

### 2 FITシステム

#### ライブラリー化する

FITシステムにより、フレキシザイム技術で創製できるようになった特殊ペプチドを段違いの多様性(数や種類)を持ったライブラリーとして構築することができるようになりました。

### 3 RAPIDディスプレイシステム

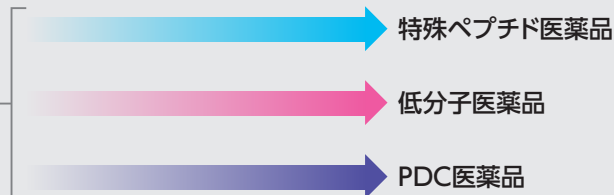
#### 高速スクリーニングする

RAPIDディスプレイシステムにより、数千億から兆単位の数の特殊ペプチドを効率のかつ高速、正確にスクリーニングすることができるようになりました。

## PDPSを用いた創薬開発バリエーション



PDPSにより同定されたヒットペプチド



## ビジネスモデル

Business Model

### 事業内容

当社は当社独自の創薬開発プラットフォームシステムであるPDPS(Peptide Discovery Platform System)を活用した3つの事業戦略：①創薬共同研究開発契約、②PDPSの技術ライセンス契約、③戦略的提携による自社パイプラインの拡充を進めています。

#### 3つの事業戦略

##### 創薬共同研究開発契約

当社では創薬ターゲットタンパク質の提供を受け、当社独自の創薬開発プラットフォームシステムであるPDPS(Peptide Discovery Platform System)を用いて、特殊環状ペプチドや低分子医薬の研究開発を行う創薬共同研究開発を進めています。従来の医薬品開発の手法では同定が困難であったターゲットに対してもヒット候補化合物を取得することが可能となっています。

##### PDPSの技術ライセンス契約

創薬共同研究開発アライアンス・パートナーの中には、非独占的な技術ライセンス許諾契約を締結したパートナーが6社(米国 プリストル・マイヤーズ スクイブ社、スイス ノバルティス社、米国 リリー社、米国 ジェネンテック社、塩野義製薬、米国 メルク社)が含まれています。技術移管先企業では創薬ターゲットの制限なく、PDPSを用いた創薬研究開発を自社内で進めることができます。

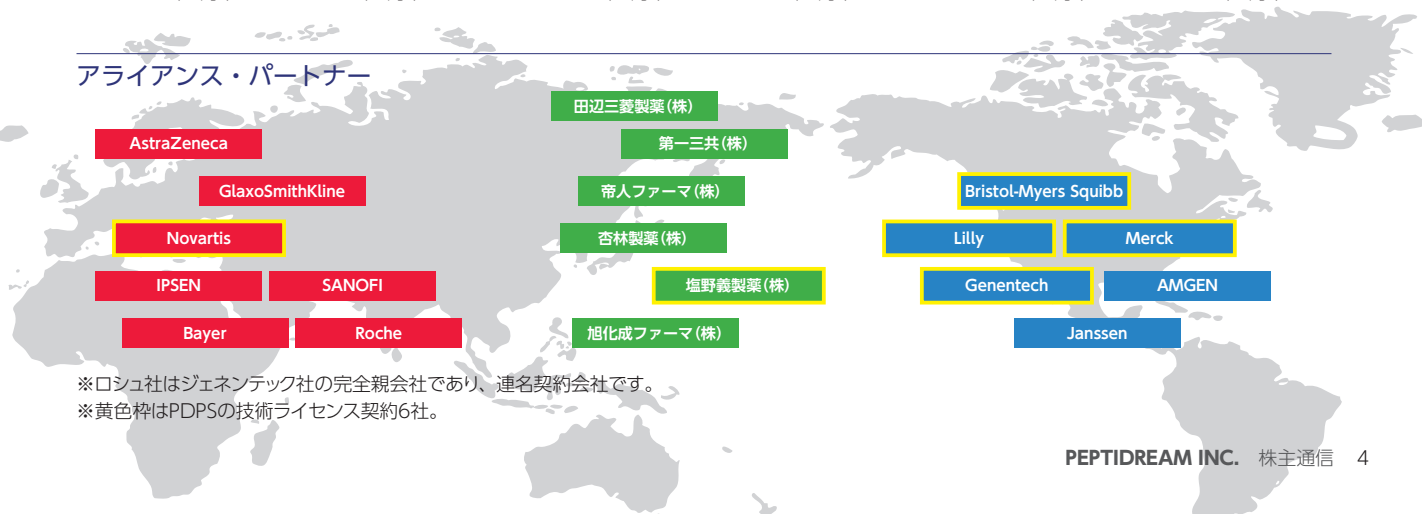
##### 戦略的提携による 自社パイプラインの拡充

世界中の特別な技術を有する創薬企業・バイオベンチャー企業及びアカデミア等の研究機関と戦略的提携を組むことで、自社の医薬品候補化合物(パイプライン)の拡充を図っています。

※ 2018年6月30日現在で4社(JCRファーマ、モジュラス、英国Heptares Therapeutics、米国Kleo Pharmaceuticals)との戦略的提携、また川崎医科大学と難治性希少疾患に対するペプチド創薬に関する共同研究を実施し、ビル&メリンダ・ゲイツ財団と世界の最貧国において大きな問題となっている結核及びマラリア撲滅に向けた治療薬の共同研究開発を行っています。



#### アライアンス・パートナー



※ロシュ社はジェネンテック社の完全親会社であり、連名契約会社です。

※黄色枠はPDPSの技術ライセンス契約6社。



## サステナビリティへの取り組み (ESG)

ESG Activities

### 取り組み 指針

当社は、「全世界の病気で苦しんでいる方に『ありがとう』と言ってもらえる会社」の実現をミッションとしております。これを成し遂げるには、さらなる成長を加速していくと同時に、サステナビリティへの取り組み (ESG) が不可欠と考えております。

近年、海外の機関投資家を中心に投資先企業を、財務情報だけでなく、非財務情報も考慮して企業のサステナビリティ(持続可能性)を評価する動きが広がっており、特に環境・社会・ガバナンス(ESG)に関する取り組みへの関心が高まっています。今回、当社事業にとっての重要性、ならびにステークホルダーにとっての重要性の観点から、マテリアリティの高い優先課題10項目を特定し、それぞれに当社の基本方針と重点取り組みをまとめ、当社WEBサイト上に専用ページを設置しました。

### ① 地球環境への配慮

当社は数ある創薬バイオ企業の中でもトップクラスの水準を目指して取り組んでおります。分別廃棄の徹底やリサイクル率向上を通じて、循環型社会の構築に貢献するとともに、パリ協定の「2℃目標」達成に向けて、2050年までに50%以上のCO<sub>2</sub>排出量削減を目指すとともに、SBT(企業版2℃目標)策定を含めた取り組みを推進して参ります。また、新本社・研究所は、CASBEEの環境性能評価において最高ランク「S認定」を取得しております。

### ② 社会・従業員に関する取り組み

新本社・研究所の所在地である神奈川県川崎市殿町、および国際戦略拠点「キングスカイフロント」の一員として、地域コミュニティの持続的発展や教育・学術面での活動に貢献しております。また、当社の革新的な創薬開発技術の提供、ならびにパートナーシップの有効活用、知財ポートフォリオの整備を通じて、ヘルスケア業界全体の効率的なイノベーション創出

を実現して参ります。イノベーション企業としての当社にとって、最も重要な資本は人財です。一人一人の従業員の個性(強み)を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、自己の能力を最大限発揮できるような環境づくりに努めています。

### ③ ガバナンス

取締役会において議決権を有する3名の監査等委員(独立社外取締役)が経営の意思決定に関わることで、取締役会の監査・監督機能を強化するとともに、取締役会の実効性向上に向けた取り組みを積極的に推進しております。また、国内外の株主・投資家をはじめ広く社会の皆さまが当社の実態を認識できるよう、企業情報を積極的かつ公平に開示し、経営の透明性向上に努めております。機関投資家による持株比率は約51%となり、外国人株式所有比率も30%を上回りました。また、個人投資家の皆さまにも積極的に情報開示を推進し、2017年度は1,200名を超える個人投資家に対する会社説明会を実施致しました。

#### Environment(地球環境への配慮)

- 1 CO<sub>2</sub>排出量の削減
- 2 廃棄物の削減
- 3 水資源の有効利用、水質汚染の防止

#### Social(社会・従業員に関する取り組み)

- 4 社会・地域コミュニティへの貢献
- 5 業界全体のイノベーション創出の効率化
- 6 ダイバーシティの尊重、働きやすい環境づくり
- 7 労働安全衛生の順守

#### Governance(ガバナンス)

- 8 株主・投資家、広く社会の皆さまとの対話
- 9 コーポレートガバナンス
- 10 コンプライアンス・リスク管理

### 本社・研究所社屋

CASBEE (建築環境総合性能評価システム)  
最高ランク「S認定」を取得

CASBEE川崎-2015年版にて2016年2月15日に評価を実施

### 従業員女性比率

40%

2018年6月30日時点の従業員女性比率は39.6%です。日本の製薬企業主要7社平均23.0%\*を大きく上回っています。

\* 売り上げ規模上位7社、各社公開データより

### 機関投資家との対話実施延べ社数

455社

2017年度に対話(電話会議含む)を実施した機関投資家数は累計で455社です。決算説明会を2回、施設見学会を1回、海外への訪問IRは3回実施しています。

### 排水中の汚濁・有害物質

測定限界以下

9カ月間実績(2017年7月 - 2018年3月)

### 労働災害発生件数

ゼロ

2015年以降の労働災害発生件数はゼロです(2018年6月30日現在)。

### 個人投資家向け会社説明会

17回 / 1220名

個人投資家向け会社説明会は47都道府県すべてでの実施を計画しています。2017年度の個人投資家向け会社説明会は、17都市で実施し、ご来場者数は1220名でした。

## News & Topics

### ● 米メルク社に対する非独占的ライセンス許諾契約

2018年6月、米メルク社との間でPDPSの非独占的なライセンス許諾契約を締結いたしました。これでPDPSの技術ライセンス先は6社となりました。

### ● 米ジェネンテック社との創薬共同研究開発の拡大契約

2018年6月、米ジェネンテック社との間で、複数の創薬標的タンパク質に対して特殊環状ペプチドを創製する創薬共同研究開発の拡大契約を締結いたしました。米ジェネンテック社はPDPSの技術ライセンス先でもあり、米ジェネンテック社が特殊環状ペプチドを用いた創薬にこれまで以上に力を入れることになると考えられます。

### ● 塩野義製薬へのPDPSの技術移管が完了

2018年5月、2017年6月にPDPSの非独占的なライセンス許諾契約を締結した塩野義製薬へのPDPSの技術移管が完了し、塩野義製薬の研究所内で運用が開始されました。これでPDPSの技術移管先企業は5社となりました。

### ● 独バイエル AG 社との創薬共同研究開発契約

2017年11月、独バイエルAG社との間で複数の創薬標的タンパク質に対して特殊環状ペプチドを創製する創薬共同研究開発契約を締結いたしました。これで創薬共同研究開発の契約締結先企業は18社(国内製薬企業6社、海外製薬企業12社)となりました。

### ● ペプチスター社が工場建設に着手

塩野義製薬、積水化学工業と合併で2017年9月に設立した特殊ペプチド原薬の研究開発、製造及び販売を行う新会社・ペプチスター株式会社が2018年5月に工場建設に着手いたしました。2019年9月頃をめどに商業生産を開始する計画です。

技術力とチームワークに磨きをかけ、  
次の成長ステージへ力強く前進します。

代表取締役社長 リード・パトリック



Q 2018年6月期を振り返り、営業状況をお聞かせください。

新本社・研究所が稼働し、開発プログラムは84件に増加。  
売上高・利益とも伸長し、過去最高業績を更新しました。

当期は、売上高が計画値の70億円に届きませんでした  
が、営業利益は29億円の計画を果たし、増収・増益により  
過去最高業績を更新しました。売上計画の未達は、見込ん

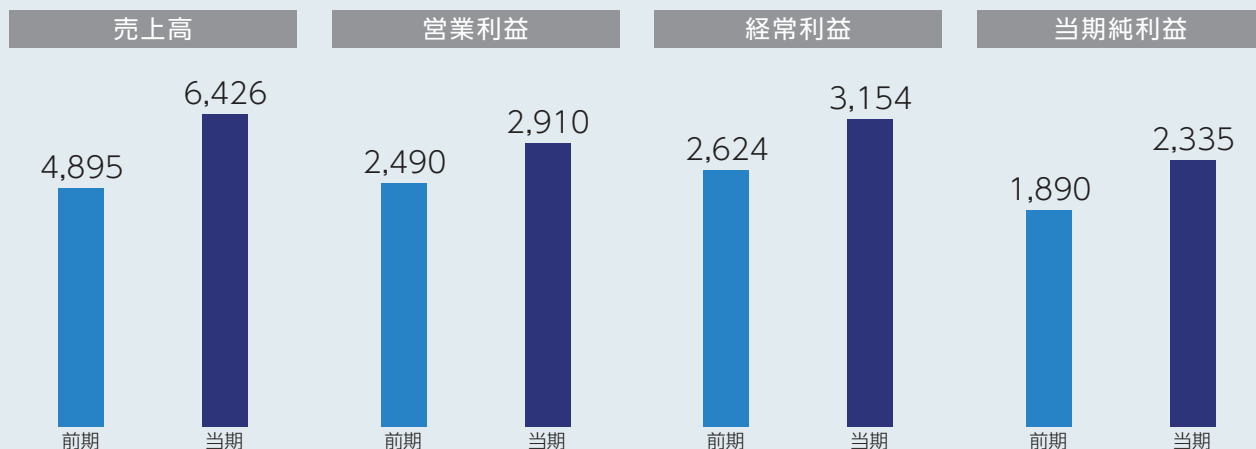
でいた契約案件の期ずれによるものですが、全般的には極めて好調に推移した1年間だったと捉えています。

進行中の開発プログラムは、当期末現在で84件(前期末比24件増)を数え、より創薬実現の確度が高い案件に入れ替わりつつ増加しています。当期は、このうち2件が臨床試験段階での開発となりました。

創薬共同研究開発は、新たにバイエルAG社との契約を締結し、18社をパートナーとしています。当期は、ここから6件のクライテリア達成を得て、マイルストーンフィーを獲得

## 業績概要

(単位：百万円)





しました。また、ジェネンテック社との共同研究は、拡大契約の締結に至り、研究開発の進捗が良好なパートナーシップにつながっています。今年2月には、ブリストル・マイヤーズ スクイブ(BMS)社とのプロジェクトにおいて、バイオイメージング剤(PETトレーサー)の臨床開発が開始され、特殊環状ペプチドの幅広い応用を示す成果を上げました。

PDPS(創薬開発プラットフォームシステム)の技術ライセンス先は、メルク社の新規契約を獲得して6社となりました。新たに塩野義製薬が技術移管を完了し、現在5社において活発な運用が行われています。

戦略的提携による自社パイプラインの拡充は、バイオベンチャー企業4社および大学・研究機関2カ所と戦略的共同研究を進めています。昨年8月から新本社・研究所を稼働させ、増員を進めたことで、開発キャパシティが拡大しており、より付加価値の高い開発ステージへの対応も可能となりました。

一方、自社創薬品として開発中のインフルエンザ治療薬「PD-001」は、前臨床試験が無事に終了し、現在データ解

析を進めています。現在、いくつかの製薬企業と共同開発もしくはライセンスアウトに向けた協議を行っています。

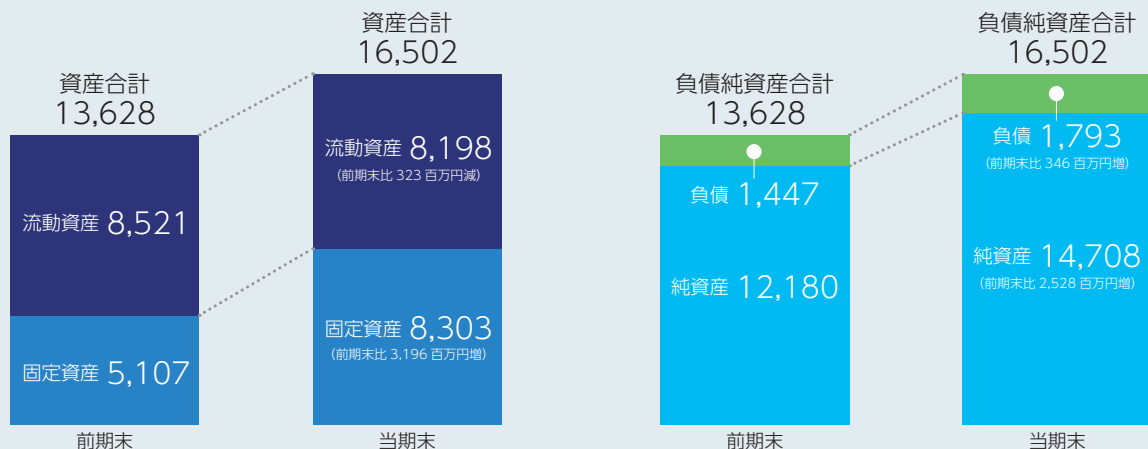
## Q 今後の成長につながる事業展開の変化をご説明願います。

創薬共同研究開発の契約形態が拡大。ペプチスターは200億円の資金調達を実施し、工場建設に着工しました。

ここ1、2年で創薬共同研究開発の契約形態は、特殊ペプチドが持つポテンシャルを活かした、多様な展開や権利の拡大に対応するものに変化しつつあります。例を挙げますと、ヤンセンファーマ社およびバイエルAG社との契約は、低分子医薬品の研究開発やPDC(ペプチド-薬物複合体)への展開を含んでいますし、前述のBMS社によるバイオイメージング剤としての開発やジェネンテック社との拡大契約も、そうした変化の表れです。

## 財務状況

(単位：百万円)





従来のプロジェクトの順調な進展によって、当社とのパートナーシップへの信頼感や特殊ペプチドの可能性への期待が高まっている状況と言えるでしょう。当社は、新たな契約形態の拡大を成長機会として活かし、収益性の向上につなげていく考えです。

事業展開におけるもう一つの動きとして、特殊ペプチド原薬の安定供給を担うべく、昨年9月1日付で合併設立したペプチスター株式会社は、今年4月までに約200億円の資金調達を実施し、同5月から大阪府摂津市で工場の建設を開始しました。工場の操業開始は、2019年9月頃を予定しています。

### Q 2019年6月期の注力課題と今後の見通しは いかがですか？

今後は自社パイプラインの開発加速に必要な研究開発への投資を戦略的に拡充します。

2019年6月期は、引き続き研究開発のキャパシティ拡充によるプログラムの進展が見込まれるとともに、創薬共

同研究開発およびPDPS技術ライセンスにおける拡がりも期待できる状況です。以上を踏まえ、業績については売上高72億円以上、営業利益33億円以上、経常利益36億円以上、当期純利益26億円以上と、増収・増益による最高業績の連続更新を計画しています。

注力課題としては、自社創薬および戦略的提携における自社パイプラインの開発加速、および付加価値化に必要な研究開発への投資を戦略的に拡大していきます。

そのために従業員数の増加と研究開発費の増加を計画しています。

当社は、中期の見通しについては、開示内容を精査し、中期目標の開示を継続しております。4年後となる2022年6月期までの中期目標は下記のとおりです。

①新薬の上市(承認・販売)	1件以上
②創薬共同研究開発契約企業数	25社以上
③PDPSの非独占的技術ライセンス許諾先企業数	8社以上
④臨床試験開始プロジェクト数	10件以上
⑤2022年6月期の期末人員数	120人以上

現在の進捗状況を鑑み、これらの5項目は十分に達成可能であると見ています。組織体制のさらなる拡充を図りつつ、ペプチドリームにしかない技術力とチームワークに磨きをかけ、次の成長ステージへ力強く前進してまいります。

当社は、研究開発型企業でありながら上場以来黒字を維持し、短期的な収益創出力と中長期の大きな成長ポテンシャルをともに備えていると自負しています。株主の皆様には、当社が拓いていく医療の未来にご期待いただき、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 会社概要／株式の状況

Corporate Profile / Stock Information

### 会社の概要 (2018年6月30日現在)

設立	2006年7月
資本金	3,915,983,000円
事業内容	創薬研究開発業
本社	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-23 TEL 044-270-1300

**主要取引先** 田辺三菱製薬(株)、第一三共(株)、帝人ファーマ(株)、杏林製薬(株)、塩野義製薬(株)、旭化成ファーマ(株)、米 Bristol-Myers Squibb、米 Eli Lilly、米 Merck、米 Genentech、米 AMGEN、米 Janssen、英 AstraZeneca、英 GlaxoSmithKline、スイス Novartis、仏 IPSEN、仏 SANOFI、独 BayerAG

### 役員 の 状況 (2018年9月27日現在)

**代表取締役会長** 窪田 規一  
日産自動車(株)、(株)スペシャルレファレンスラボラトリー(現(株)エスアールエル)、(株)JGS代表取締役社長、当社設立、代表取締役社長を経て、現任

**代表取締役社長** リード・パトリック  
NRSA 研究員、国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター特任助教授、同大学国際産学共同研究センター客員助教授及び特任助教授、当社常務取締役研究開発部担当を経て、現任

**取締役エグゼクティブ・ヴァイスプレジデント** 舩屋 圭一  
三菱化学(株)(現田辺三菱製薬(株))、Novartis International AG、Head of PPI Drug Discovery and Novartis Leading Scientist を経て、現任

**取締役エグゼクティブ・ヴァイスプレジデント** 金城 聖文  
ボストン・コンサルティング・グループ(BCG)でパートナー&マネージングディレクターを経て、現任

**社外取締役(監査等委員)** 笹岡 三千雄  
大塚化学(株)探索研究所所長、同社常務執行役員を経て、現任

**社外取締役(監査等委員)** 長江 敏男  
塩野義製薬(株)、アベンティスファーマ(株)(現サノフィ(株)) 執行役員、ヨーク・ファーマ(株)代表取締役社長を経て、現任

**社外取締役(監査等委員)** 花房 幸範  
青山監査法人を経て、アカウンティングワークス(株)設立代表取締役、アークランドサービス(株)取締役(監査等委員)現任、当社社外取締役現任

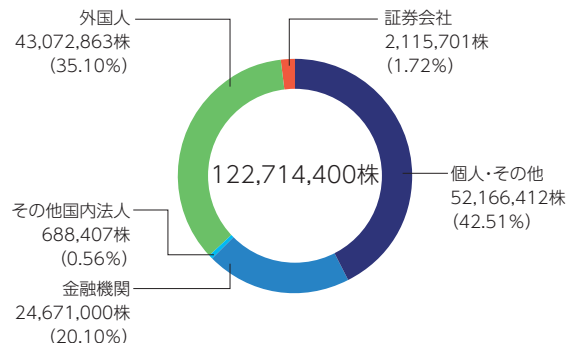
### 株式の状況 (2018年6月30日現在)

発行可能株式総数	342,400,000株
発行済株式総数	122,714,400株
株主数	21,231名

### 大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
窪田 規一	14,786	12.05
菅 裕明	10,725	8.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,534	6.14
リード・パトリック	5,200	4.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,632	3.77
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)アカウントノントリーティー	4,496	3.66
OPPENHEIMER GLOBAL OPPORTUNITIES FUND	3,000	2.44
ステート ストリート ロンドン ケア オブ ステート ストリート バンク アンドトラスト, ボストン	2,944	2.40
特定有価証券信託受託者株式会社SMBC信託銀行	2,400	1.96
村上 裕	2,200	1.79

### 所有者別株式分布



## 株主メモ

---

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3か月以内
株主確定基準日	定時株主総会 6月30日 期末配当を行う場合 6月30日 中間配当を行う場合 12月31日
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 取次所：三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。当社の公告掲載 URL は次のとおりであります。 <a href="https://www.peptidream.com/">https://www.peptidream.com/</a>

### ホームページのご案内



<https://www.peptidream.com/>



ペプチドリーム

検索

## ペプチドリーム株式会社

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-23  
TEL (代表) 044-270-1300  
(IR広報) 044-223-6612

<https://www.peptidream.com/>

UD FONT



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

環境に配慮した植物油インキを使用しています。